

将来、政治に積極的にかかわる生徒の育成

—「選挙と選挙をめぐる問題点」の授業づくりを通して—

茨城県 公立中学校教諭

1 はじめに

学習指導要領公民的分野の内容（3）—イには、「国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解させ、議会制民主主義の意義について考えさせるとともに、……民主政治を推進するためには、公正な世論の形成と国民の政治参加が大切であることに気付かせる。その際、選挙の意義について考えさせる。」とある。

つまり、選挙に関することについては、次のことに気づかせることが必要である。

- ①民主政治とは国民の意思に基づく政治、世論による政治であること。
- ②国民の意思が国政や地方の政治に十分反映されるようになるためには、国民の一人ひとりが政治に対する関心を高め、主権者であるという自覚を深めることが大切であるということ。
- ③選挙は、国民の意思を政治に反映させるための主要な方法であり、議会制民主主義の根幹をなすものであること。
- ④良識ある主権者として主体的に政治に参加することが大切であること。

しかし、現実の社会は、国政選挙の投票率等をみても明らかなように20代、30代の政治離れは、社会的問題となっている。若者を中心に、政治に参加する機会を積極的に活用しているとはいえない状況といえる。



「中学生の公民 初訂版」p.92

そこで、将来のわが国の未来を担う生徒たちには、国民主権の意義を認識し、将来は有権者として選挙権を積極的に行使してほしいと思う。国民として主体的に政治にかかわることができるような生徒の育成をめざし、「選挙」に関する学習を中心に単元「国民として国の政治を考える」の授業づくりを考えたい。

2 単元「国民として国の政治を考えよう」の授業構成

指導に当たっては、教科書の指導書を参考に生徒の活動をできるだけ取り入れたい。

学習計画	時間
①なぜ国会議員をめざすのか	1時間
②選挙ゲームをやってみよう	3時間
ア 選挙ゲーム	(2)
イ 選挙の問題点	(1)
④国会を体験しよう	2時間
⑤内閣の役割としくみは	1時間
⑥模擬裁判をやってみよう	2時間
⑦国民が主人公になる政治とは	1時間

3 「選挙ゲームをやってみよう」の授業 —「選挙と選挙をめぐる問題点」の 授業づくり—

(1) 授業展開

ア 選挙ゲームをしよう（2時間扱い）

教科書p.134～135を参考に「選挙ゲーム」を実施する。

① 選挙公約を考える。



「中学生の公民 初訂版」p.134

- ② 全員の公約をカードで紹介し、同じ内容の公約の人でグループ(政党)をつくる。
- ③ グループで選挙公約を検討し、立候補する人を決める。
- ④ 選挙運動を実施する。



「中学生の公民 初訂版」p.135

- ⑤ 投票をする。
 - ・立会演説会などで聞いた政策の内容をよく判断して投票する。自分のグループ以外の人に投票してもよい。
- ⑥ 開票する。

⑦ 「選挙ゲーム」の結果、生まれた疑問について調べ、話し合う。

〈予想される疑問〉

- ・実際の国政選挙はどのように行われているのか。
- ・国民は、必ず、どの選挙でも投票しているのだろうか。
- ・政策はどのようにして実現されるのだろうか。

イ 選挙の問題点（1時間扱い）

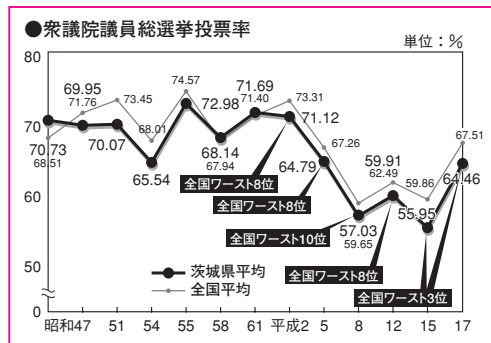
衆議院や参議院の選挙制度について調べ選挙の問題点について考える。

【本時の目標】

国民として代表者を選ぶ「選挙」は、きわめて重要であることに気づき、民主権との関連でその重要性を理解することができる。

【展開】

① 学習課題をつかむ。



茨城県選挙管理委員会発行「五年未来」より

- ・筆者の茨城県は、このところの各選挙とも全国最下位レベルの投票率である。各都道府県ごとにそれぞれの投票率を洗い出し、その原因を探ることで導入としたい。

学習課題例

全国最下位レベルの投票率で茨城県民は、主体的に政治に参加しているといえるだろうか。

② 選挙制度について調べる。

●衆議院の選挙制度

- ・小選挙区比例代表並立制

●参議院の選挙制度

- ・選挙区選挙と比例代表制の組み合わせ

●投票率を上げるための試み

- ・投票時間の延長
- ・期日前投票の制度の整備
- ・manifestoの提示

③ 選挙をめぐる問題について調べ、選挙に臨む国民の在り方について話し合う。

A. 選挙の課題を調べる。

●投票率が低い。

〈投票率が低いわけ〉

- ・国民の政治への関心が低いから。
- ・候補者の公約がわかりにくいから。
- ・政治参加の一つが、投票することであるという意識がないから。
- ・投票率が極端に低い20代や30代の方は、政治への関心が低い選挙の意義を理解していないから。

●資金の大きさや人脈によって選挙の結果が決まる傾向がある。

B. 今後の国民のあり方について話し合う。

- ・選挙は、国民が自分の考えを示す重要な機会である。選挙権は、国民にとって大切な権利であることを認識しなければならない。
- ・政党や候補者の公約や意見を聞いてよく判断しなければならない。

④ 「投票率アップ大作戦」をそれぞれが提案する。

●私の考える「投票率アップ大作戦」

- ・パンフレットの作成
- ・標語の募集

「国民が政治に参加してこそ、民主主義」

「政治の主役は、わたしたち国民です」

- ・わかりやすいmanifestoの作成

(2) 評価基準

●国民主権の意義を認識し、将来の有権者として積極的に政治に参加する意識をもつことができるようにする。

(社会的な事象への関心・意欲・態度)

●選挙において投票することが、民主政治では大切なことであることを認識し、それが国民の権利であると同時に責務であることを考えることができる。

(社会的な思考・判断)

●年表やグラフから、国の選挙の歴史や投票率低下の問題などをとらえ、問題解決するのに必要な資料や情報を幅広く収集・選択・活用することができる。

(資料活用の技能・表現)

●「選挙」は、間接民主制をとる日本では国民が政治に参加するきわめて重要な機会であることを理解することができる。

(社会的な事象についての知識・理解)



4 おわりに

国民全員が一堂に会する直接民主制は民主主義の理想であるが、わが国では現実的ではない。ならば、民主国家として私たちが長年かけて獲得したさまざまな権利をどのように行使するのかが、重要な課題となるはずである。ところが、実際はせつかくの政治参加の権利を行使しなかったり、国民としての責任や義務を果たさなかったりする人が数多くいる。

今回は、「選挙」を題材に主体的に政治に参加し、国民としてどう生きるべきかという視点から授業づくりをめざしたが、この視点は全単元を通して実践に当たらなければならない視点だと考える。